令和６年度　音更町立下士幌小学校の学校経営案

1.教育目標

（1） 学校教育目標

○ 自ら学び考える子ども（知）	○ 思いやりのある明るい子ども（情）
○ 進んで取り組みやりぬく子ども（意）	○ 健康で活力ある子ども（体）

（2） 目指す姿

学校

今日も来て良かったと思える学校

① 安心感のある教育活動
② 肯定感を育む触れ合い
③ 所属感を感じる人間関係

保護者

明日も通わせたいと思える学校

① 期待や願いに応える教育実践
② 信頼感を育む情報提供
③ 連帯感を育む共育活動

地域

いつも応援したいと思える学校

① 帰属意識を育む郷土学習
② 地域に学ぶ協力体制
③ 地域性を生かした協育活動

教職員

常に誇りと情熱を備えた教師集団

① 学びの質を向上する組織体制
② 個々に応じた経営参画
③ 同僚性を磨く組織体制

（3） 緑南地区小中学校が目指す子どもの姿（緑南地区学校連携会議より）

〈体〉健康で元気があり、生涯にわたって、自ら進んで健やかな体づくりをする子ども
〈徳〉明るく自信に満ち、思いや協力を大切にする子ども
〈知〉進んで学び、考え・協働し、創造性豊かに学び続ける子ども

2. 令和6年度経営スローガン

「夢いっぱい」「笑顔いっぱい」「命いっぱい」生きぬく下士幌の子ども

3.学校経営の重点と具体的方策

Ⅰ　新しい時代に必要となる資質・能力をはぐくみ、学力向上を図ります

（1）「子どもが主語」となる授業改革の徹底（子どもが回す令和の学習過程への変換）

○ 事前準備⇒課題設定⇒情報収集⇒整理・分析⇒まとめ・表現⇒振り返り（発展）を基本とする授業づくり
○ 単元を通した評価計画と「指導と評価の一体化」の実現
○ 緑南地区学習のきまり「きっかけ」、「下士幌小の学習ルール」の徹底
○ 校内研究（語彙指導、言語活動の充実）を意識した授業の促進
○ １人１台端末を効果的に活用する教職員の資質・能力の向上
○ 授業における学校図書館の活用の充実と読書活動の推進（司書教諭との連携）
○ SDGs、ESD を意識した学びの促進

（2）家庭と連携した家庭学習の指導の徹底

○ 望ましい家庭学習習慣の確立と１人１台端末の効果的活用
○ 町研究所の「家庭学習の手引き」の活用と、実態把握と改善

Ⅱ　特色ある教育課程を継続し、豊かな人間性を高めます

（1）多様な体験を軸とした教育課程

○ 地域資源を活用した教科横断的な取組の促進
○ 地域の教育力を生かした持続可能なカリキュラム整備
○ 地域の防災機能と連携した的確な判断力・回避能力の育成
○ 学校運営協議会・地域学校協働本部との連携・充実

（2）不登校・いじめ問題への対応

○ 挨拶や場に応じた言葉遣いの指導
○ 自己肯定感・自己有用感を育む学級づくり
○ 縦割り活動による集団の向上、認め合う心の育成
○ 不登校やいじめの未然防止・早期発見と組織的対応
○ SCや関係機関との連携
○ いじめアンケートやQUテストの活用と教育相談の充実

Ⅲ　保小・小小・小中の連携を充実させ、社会にはばたく力を育てます

（1） 保育所との円滑な接続

○ 地域保育所とのスポーツフェスティバル・学習発表会などの行事の合同開催
○ 入学当初の弾力的な時間割の作成
○ スタートカリキュラムの充実

（2） 緑南地区小中学校で目指す「15の姿」と方策の共有

○ 目指す子供の姿の共有、「学力・体力・心力・特支」4部会の充実（中1ギャップ解消）
○ 日常的な小小連携、小中連携による合同授業、乗り入れ授業、相互授業参観の促進
○ 木野東小学校との修学旅行・宿泊学習の合同実施
○ 各種研修会の合同開催や参加促進

Ⅳ　一人一人のニーズにあわせた支援を推進し、教育環境の質を高めます

（1） 組織的・継続的な支援の促進

○ 通常の学級における支援や配慮を要する児童への手立ての確立（UD）
○ 個別の教育支援計画の活用による一人一人に応じた指導や支援の充実
○ 児童・保護者の不安感の解消とサポート体制の充実
○ SC や校内支援委員会を効果的に活用した支援体制の確立
○ UDの視点に立った掲示教育・図書教育の促進
○ 他校や外部機関との情報共有と連携の強化

（2）小規模特認校制度の充実

○ 地域の教育資源を最大限に生かした教育活動の提供
○ 児童・保護者の不安感の解消とサポート体制の充実